宇仁郷通信

No.173
令和 5 年(2023)12 月

発行：宇仁郷まちづくり協議会（編集:情報部会）

第 16 回コスモスまつり

秋晴れの好天に恵まれた10月22日（日）、第16回コスモスまつりを宇仁小学校グラウンドで開催しました。特別企画の兵庫県警察音楽隊による演奏もあったことから300人余りの参加者を得て、にぎやかなコスモスまつりとなりました。以下は各イベントの概要です。

宇仁っ子ふるさとガイド隊

今年の宇仁っ子ふるさとガイド隊は4年生6人が液晶スライドを使って宇仁小の歴史などを、その後2班に分かれて校舎探検を、クイズを交えながら分かりやすく説明しました。クイズは卒業生でも知らない内容もあり、参加者は「へーっ、知らなかった」「そうなんだ」とガイド隊の説明にうなずいていました。

ふれあい喫茶（ふれあい交流広場）

スタッフ5人で金曜日に大根を30本、こんにゃく55枚を下準備から味付け、土曜日スタッフ10人で卵280個の皮むき。3年ぶりのコスモスまつり、こんなに作って売れるかな？ 明日の天気大丈夫かな？ と心配しつつの準備作業でした。翌朝起きれば晴天、ヤッター！ さー開店！ 3年間のコロナ禍を吹っ飛ばしてスタッフも大張り切り。兵庫県警の音楽隊による演奏を観ながら、おでんを食べている人、楽しそうです。「美味しいから、お代わり」と買っていただきました。

コスモスまつりが閉幕した時おでんもおにぎり260個もほぼ完売！ ありがとうございました。後片付け後の反省会ではスタッフ一同大満足。来年もコスモスまつりに参加出来ればと思います。

三世代ふれあいイベント（宇仁校区はつらつ部会）

今回の三世代ふれあい事業の内容は、グラウンドゴルフホールインワンゲーム大会となりました。各町より5人を一組とし、子ども、保護者、シニアクラブ会員で構成、また女性会、PTA 関係の皆様を含め計8チームで、7m先のホールポストめがけて、ホールインワンゲームが開始されました。各チームから大きな歓声や、外れたくやしさの大声があちこちから聞こえてきます。その中でも子どもさんがホールインワンされたときは、とびきりの歓声が上がっていたのが印象的でした。皆様に楽しんでいただいていることが肌で感じとれるイベントになりました。今大会をサポートしてくださった、区長会、民生委員、民生協力委員の皆様に感謝しながら、来年も宇仁地区の三世代ふれあいの輪が広がる大会にしていきたいと思います。

警察音楽隊による演奏

今年のコスモスまつりの目玉イベントは兵庫県警察音楽隊の演奏とダンスです。11時の開演間近になるとどこからともなく観衆が集まってきました。澄み切った青空の下で心地よい管楽器の音が響き渡りました。特殊詐欺被害防止啓発ソング“ワン･ツー･パンチ”（三百六十五歩のマーチの替え歌）を皆で合唱したり、県警のお姉さんと子どもたちが一緒にダンスしたり、楽しいひと時を過ごすことができました。

鍛治屋町三世代交流行事

鍛治屋町は9月10日（日）にコロナ禍で数年中止していた三世代交流行事を再開し、老若男女多数参加していただきました。まずは村の鎮守である八幡神社で神事を行い、今年初めに新調したアルミポールに掲げた幟を披露しました。その後は営農倉庫でバーベキューとお楽しみ抽選会、午後に子供相撲を執り行いました。過疎の村ではありますが、子どもの数も少し増えにぎやかな三世代交流行事となったことを喜んでおります。（鍛治屋町区長 繁田宜久）

田谷町あったか声掛け作戦

10月28日（土）、認知症の知識を深める事業として田谷町があったか声掛け作戦勉強会を計画し、多数の田谷町住民の方と宇仁地区はつらつ部会会員が参加して、田谷町公民館とその周辺で実施しました。

まず、田谷町の小川区長が「高齢者社会の課題である認知症をテーマに地域住民が認知症を正しく理解し、誰もが安心して暮らせる町になるように願いをこめて、今回のあったか声掛け作戦事業を計画しました」と挨拶し、勉強会にはいりました。社会福祉協議会認知症地域支援推進委員の協力も得て今回の研修会で学んだことの概要は下記の通りです。

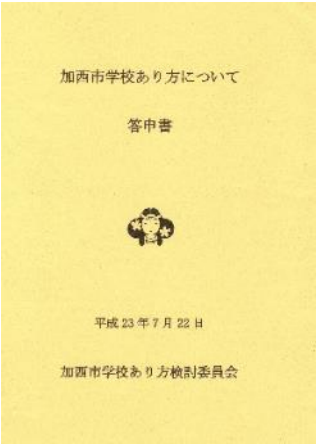
1. 小規模多機能型居宅介護事業所“どっこいしょ”の三好忠行講師をお迎えして、認知症サポート講座を受講しました。先生より、必ず、誰でも、老化し、認知症になるリスクがあります。もし、認知症になっても幸せに暮らせる地域作りをしておく事が大切です。その為にも普段から地域住民のつながりが大切であると説明されました。
2. 認知症の方への接し方を田谷町住民が演ずる面白おかしい寸劇で教えていただきました。区長さんも参加されたためより親近感のわく寸劇でした。また駐在さんより認知症の方を発見した場合は、認知者の体の状況を詳しく警察に説明してくださいとのことでした。
3. 最後に参加者を6つのグループに分け、各グループ5分間隔で声掛け訓練を公民館周辺で実施しました。軽度な認知モデル者・中度な認知モデル者・重度認知モデル者の三者を各グループの皆さんが声を掛けられますが、白熱した演技に声かけの皆さんがタジタジになる場面もあり、実践さながらの声掛け訓練になり、意義深い勉強会になったのではないかと思います。

宇仁地区においても高齢者率が毎年上昇しており、何らかの認知症状が現れる方々が増加していく傾向にありますので、各地域のつながりを密にして、皆さんが幸せに暮らせる地域社会を目指して、一人一人が認知症患者を支えられる住みよい町にして行きたいものです。

（宇仁地区はつらつ部会）

宇仁郷のあゆみ　第二章 宇仁郷まちづくり協議会の群像達㉑

宇仁郷まちづくり協議会


加西市学校あり方について

答申書

平成23年7月22日

加西市学校あり方検討委員会

11. 加西市学校あり方についての答申書

加西市学校あり方検討委員会は、平成22年8月23日に中川市長より加西市内の小中学校のあり方について、教育制度に関すること、学校適正規模や施設整備・再配置に関すること、およびその他必要と思われる事項について諮問を受け、7回の検討会と2回の視察を行って平成23年7月22日市長に答申されました。

委員は学識経験者5人、地域代表8人、女性団体1人、学校代表2人、保護者代表4人の計20人の構成でした。答申書の概要は、①教育制度に関することは･･･小中一貫教育推進委員会と各種部会を立ち上げ、5年後（平成27年度）に小中一貫教育の全校実施を目指す。9年間の継続した指導により確かな学力・豊かな心・健やかな体を育成し、生きる力を育むとしている。②学校の適正規模や施設整備・再配置に関することは･･･（ｱ）木造校舎の耐震診断の結果、耐震化工事を必要とする文部科学省の基準（iw値1.1）を下回る宇仁小学校（0.22）、富田小学校（0.28）、西在田小学校（0.32）の3校は、あり方検討委員会からの要望事項として早期の改築が明記された。（ｲ）学校規模のガイドラインの最下限は、小学校は複式学級をつくらない規模50人、中学校は全学年に2学級が確保できる規模123人と定め、扱いは生徒数の動向を見て保護者・地域と協議するとしている。（ｳ）統合は現小中学校を利用する分離型でスタートして小中一貫教育の実績をつくり、中学校の耐用年終了後に一体校を新設して小中一貫教育の完成度を高める案を提唱している。（ｴ）費用比較は中学校の建て替えに併せ一体型小中一貫校を新設することで、現行体制に比べ30年間で約15.3億円の財政上の好転が見込まれるとしている。

その後、国の定める耐震基準に満たない木造校舎の早期建て替えの気運が高まる中、小学校11校存続を公約に掲げた西村和平市長が誕生し「加西市学校あり方検討委員会」の答申は凍結となりました。